

○ 教科書の「枕草子」(P32～P33)を読んで、気付いたことや考えたことを家の人に伝えよう。
(先週からの継続) 何かを書くときには取組シートでもノートでも構いません。

- ① まずは「枕草子」の上段、(現代語訳ではない方)を3回音読する。
 - ・どうしても読めないものがあるときは聞いてくださいね。
- ② 清少納言の「春は……。夏は……。」などの書き出しを借り、「枕草子」を参考にして、自分ならではの季節感を表す文章、「自分流 枕草子」を現代語で、400字程度で書いてみよう。
(現代語でも構いません!!!! また、文字数が少なくなったら(多くなったら)、そのままでも大丈夫です。文字数400字にこだわり過ぎないように。)
 - ・2枚目、3枚目に例を作りましたので、参考にしてください。
- ③ 「枕草子」を参考にした点や、自分なりに工夫した点について、簡単に書き出してみよう。
 - ・2枚目、3枚目に例を作りましたので、参考にしてください。
- ④ 家の人に、自分で作った「自分流 枕草子」を音読し、「枕草子」を参考にした点や工夫した点を伝えよう。

【伝え方】

1. 「自分流 枕草子」を音読する。
2. 発表の出だしを考えておく。

例) 「この作品で工夫した点は〇〇です。この工夫によって～～～の効果があります……。」
「私は枕草子の□□という言葉が気になりました。そこで自分流枕草子でも使ってみました。この言葉を使うことによって△△のように感じると思います……。」

【取り組み方】

- ① それぞれの季節の出だしの言葉を決める。この言葉は自分の興味関心のあるものにしてみよう。(清少納言は「それぞれの季節の好きな時間帯」を挙げている。皆さんだったら「それぞれの季節の好きな○○」の「○○」に当たる部分を決める。)

例

食べ物が好きな場合。

春…… さくらんぼ
夏…… 西瓜 (すいか)
秋…… 柿 (かき)
冬…… みかん

- ※ 例の場合、【季節の食べ物】をテーマにしています。
※ 他のテーマと考えられるもの

行事 【お花見 夏祭り 運動会 お正月 など】
植物 【つくし 桜 向日葵(ひまわり) 楓(かえで) など】
魚 【鱒(さわら) 鮭(さけ) 鰻(うなぎ) など】

など

他にも、自分の中で春夏秋冬に関係するものを決めましょう。皆さんが購入している「国語 活用資料集」の二四〇～二百四十七ページを参考にしても良いです!

- ② 次になぜ、①でその言葉を選んだのか、理由を補足(詳しく説明)する。

例

【一文目】春はさくらんぼ。【二文目】真つ赤で一口で食べられる見た目が可愛い。
【三文目】あまずっぱくて、さわやかな風味も良い。

- ※ それぞれの季節を二～四文で作れるとちょうどよいと思います。(例は三文です。)
※ それぞれの季節の一文目は「春は……」「夏は……。」……としましょう。
※ 二文目～四文目はどんなところが良いのか。理由を書いたり、説明したりしましょう。清少納言の「枕草子」では最後に「わろし」(現代語では「好ましくない」というマイナスの意味の言葉)で終わっていますが、最後まで「可愛い」「良い」などのプラスの言葉を使って終わって構いません。
※ もし、古文で気に入った言葉があったら、使っても構いません。(例 「をかし」「あはれなり」 など。)

次のページもあります。

※ いきなり文章を作らずにメモノートを書くと考えがまとまりやすいです。メモした言葉にどんな言葉を足していきます。

例 冬…… みかん



①【みかんといえば……】

- ・ 丸い
 - ・ 皮をむく
 - ・ こたつの中で食べる
 - ・ ついつい食べ過ぎてしまう
 - ・ 色が好き
 - ・ 酸味が多い(すっぱくてあまい)
 - ・ 箱ごと買う
- など



②【①で書いた内容を広げる】

- 右に挙げたメモの中で「皮をむく」と「こたつの中で食べる」を広げる。
1. 「皮をむく」
↓ 「みかんの皮を上手にむけたときは楽しい。」
 2. 「こたつの中で食べる」
↓ 「外が寒い中、みかんを温かいこたつの中で食べると心が落ち着く。」



③【今までの内容を二から四文でつなげてみる】

「冬はみかん。みかんの皮を上手にむけたときは楽しい。外が寒い中、みかんを温かいこたつの中で食べる」と心が落ちつく。」